今度は東海道53次の旅

草津宿から日本橋に向かって出発

京都三条大橋に到達して中山道の旅を終えたが、同期生との旅は楽しく、今度は東海道を日本橋に向かって旅することになった。

10月5日、草津駅に集合して、中山道と東海道の分岐点にある常夜燈から「右東海道いせみち」の方向へ歩く。

草津川の堤防沿いの道を歩いて草津川橋まで来てみると、全く水がない。渡し場のなごりの常夜燈が橋のたもとに立っている。

しばらく歩くと、立派な城門が建っている。明治の廃藩置県で解体された膳所城の門とのこと。

目川一里塚を過ぎ、目川立場の古い、落ち着いた街並みを抜け、葉山川橋を渡った先に「九代将軍足利義尚公　鈎の陣所ゆかりの地」と刻んだ大きな碑が立てられている。足利義尚は陣中で病に倒れ、25歳の若さで、この地で没したとある。

中山道と東海道の分岐点にある草津常夜灯道標の前で

東経136度子午線の碑、里中大明神の社を過ぎ、ようやく六地蔵の一里塚。ここには国重文に指定されている旧和中散本舗の豪壮な屋敷がある。

さらに1里歩いて、ようやく石部宿入口の常夜燈にたどり着いた。石部宿は「京立ち石部泊り」と言われ、京をたった旅人の1泊目が石部宿であった。全盛期には、街並みは1・6キロも続いていたというが、かつての面影はない。

この日は三雲駅近くのビジネスホテルで泊り、翌日、旧東海道を歩き水口宿に向かった。

東海道十三渡の一つ、横田渡跡に立つ常夜燈は高さ10・5メートルもある。ここから田んぼの中の道を歩く。東に向かって歩くので朝日がまぶしく暑い。ようやく水口宿西見附跡に着く。

宿場の入口に近い水口城跡を先に見学。水口城は、3代将軍家光の上洛に先立ち、将軍の宿泊所として築かれたもので、天守閣などはない。明治維新後、廃城となり処分されたが、ふるさと創生事業として堀、橋を整備し、番所跡に往時の矢倉を模した資料館が造られている。

水口宿は城下町でもあるので宿場内の道は鈎の手にいくつも曲がっている。本陣は取り壊されて碑のみだが、ベンガラ格子の入った古い街並みが残り、旧旅籠屋を利用したレストランで食べたランチはおいしかった。清水計枝（64期）

佐藤之俊氏が「肺がんよもやま話」

理科系班OB会に14人参加

上田高校理科系班OB会は8月25日（日）午後5時から銀座の居酒屋「大庄水産」で開かれました。

東京・銀座の「大庄水産」で

参加者は14人で、化学の清水周先生（47期）、堀内弘栄（51）、堀内忠久（53）、吉澤壮夫（53）、宮原廻雄（57）、大井秀三郎（58）、高橋福幸（58）、矢嶋瑞夫（58）、萩原清人（59）、岡田渉（64）、丸山幸雄（65）、安藤学（73）、佐藤之俊（77）、清水雄至（79）の諸氏でした。

今回の小講演は佐藤之俊・北里大学病院副院長による「肺がんよもやま話」。分かりやすいレジュメ付きで、質問が続出して講演に対する関心の高さを表していました。

清水先生はご高齢にもかかわらず、上田から参加してくださいました。今回は3人の方が初めて参加し、本会の将来展望を明るくしてくれました。

OB会は毎年8月最終日曜日に同じ店で行っています。

特に、60期以降の皆さん、同期や前後の方とお誘い合わせの上ご参加ください。

矢嶋瑞夫（58期）

ソフトウェアの
システム技研株式会社
代表取締役　清水 通男（66期）
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 1-34-1 サンフジビル 5F
TEL (03)5272-8830　FAX (03)5272-8836
URL http://www.s-giken.com